

横浜市福祉サービス第三者評価

評価結果総括表（保育分野）

事業所名	にじいろ保育園 戸塚駅前	
報告書作成日	平成31年1月25日	（結果に要した期間 9ヶ月）
評価機関	株式会社 学研データサービス	

評価方法

自己評価 (実施期間:平成30年 5月 15日～平成30年 11月 6日)	0～5歳児の各クラスごとの作成に、栄養士、看護師も参加し、最終的に主任と園長が取りまとめて作成しました。
評価調査員による評価 (実施日:平成30年 12月 7日、平成30年 12月 10日)	①第1日目 ガイダンス、施設見学、保育観察、事業者（職員）ヒアリング（園長、栄養士、看護師）、書類確認 ②第2日目 事業者（職員）ヒアリング（園長）、保育観察、書類確認
利用者家族アンケート (実施期間:平成30年 10月 1日～平成30年 10月 15日)	送付方法・・・園を通して保護者へ配付 回収方法・・・評価機関宛に保護者より直接郵送
利用者本人調査 (実施日:平成30年 12月 7日、平成30年 12月 10日)	第1日目、第2日目の午前遊び、昼食、午睡の状況などを中心に、観察調査を実施しました。また、幼児とは会話の中で 適宜聞き取り調査を実施しました。

総評(評価結果についての講評)

施設の特徴、施設のよい点・改善すべき点などの総括

*施設の理念を踏まえながら、施設全体としての特徴を総合的に示すとともに、特によいと思われる点、または、より質の高いサービスの提供のために、工夫すべき点・改善点などについての総括を以下にご報告いたします。

《施設の概要》

にじいろ保育園戸塚駅前は平成28年4月1日に株式会社サクセスアカデミー（平成29年8月ライクアカデミー株式会社）に社名変更により開園し、3年目になります。0～5歳児までの定員は60名、平成30年11月現在59名が在籍し、産休明け保育や延長保育、障がい児保育を実施しています。園はJR東海道線戸塚駅西口から徒歩1分、駅のホームと並行して建つビルの3～5階にあります。屋上園庭ではプランターで季節の野菜や花を育てています。駅前のため商業施設が立ち並び、戸塚区役所や図書館もすぐ近くです。少し歩くと駅の近くとは思えないほど緑豊かな複数の公園や、土手の桜がきれいな川があります。子どもたちは公園や公共施設、商業施設を毎日のように散歩やクッキングの材料買いなどに利用し、四季を感じ、充実した園生活を送っています。

《特に優れている点・力を入れている点》

○職員の声を生かす取り組みを行い、職員一丸となってより良い園作りや保育の提供に努めています

園長は、良い園であるために、まず職員の気持ちが満たされ安定して過ごせて働けることが大切と考えています。そのため園では職員が意見を言いやすい雰囲気の中で職員の声聴き、生かす取り組みを行っています。毎月実施している園内研修の今年度のテーマは「保育士としてのスキルアップを旨として」です。従来主任が担っていた進行やとりまとめを、職員の希望により今年度から月テーマごとの担当制にしました。担当から事前に宿題が出され、園長や主任も含め提出し、担当がとりまとめたうえで、みんなで園内研修に臨みます。「子どもを支配しない保育、NGワード」というテーマでは、具体的なNGワードや別の言い方、言わないための配慮や行動について意見を出し合いました。保育の振り返りや悩みの共有もでき、職員一丸となって園を良くしていこうと取り組んでいます。

○子どもの想像力や自己表現力を伸ばす活動や体験ができるように、職員が連携して取り組んでいます

職員は、一つのものから子どもたちがさまざまな活動ができるように発想しています。園では職員に対してどのような給食がよいかアンケートを実施しています。例えば、献立が出た時に、一つの素材を見てクラスでどのような食育にしたらよいか考えています。素材を買いに行く、どのようにしてできたのか、どこで採れるのか、どのように食べることができるのか、素材は造形などにどのように応用できるのかなど、そのクラスの子どもの年齢や興味の方向などを考慮して、同じものでさまざまな食育体験ができるように、保育士以外の職員も連携して取り組んでいます。さまざまな体験を通して、子どもが「〇〇してみたい」という意欲を持ったり、見たり、感じたり、考えたり、喜んだり、驚いたりを経験できるように、職員は日々の保育に取り組んでいます。

○保護者の意向をていねいにくみ取り、保護者との連携、信頼関係の構築に努めています

保護者の意向を聞くために「すまいるBOX」が置かれています。この箱は保護者の意見や要望を入れるだけではなく、行事の出欠や園からのアンケートなども入れるようになっていて、保護者が気兼ねなく使えるようにという園の配慮があります。行事の前後にはアンケートを取っています。例えば、懇談会で取り上げてほしいものを事前にアンケートで聞いて、集計した内容を掲示したり、行事後は感想を書いてもらい、その集計結果を園だよりに掲載したりしています。こうした積み重ねにより、保護者は、ほかの保護者にも共通する思いがあることがわかり、園に対して自分の気持ちや考えを気軽に伝えるようになっていきます。保護者の思いをくみ、子どもにとって第二のおうちになるように信頼関係の構築に努めています。

《今後の取り組みに期待したい点》

●日常保育の中でマニュアル類をより生かせるような整備や工夫を期待します

本社作成の「保育ガイド」「保健衛生(看護師の業務)」「栄養、給食、食育」などの内容が充実した厚いファイル仕立てのマニュアルのほか、「苦情対応マニュアル」「食物アレルギー対応マニュアル」など各種マニュアルが整備され、職員がいつでも確認できるよう事務室に保管されています。現在、マニュアルの抜粋資料などは職員に配付されていて、職員は園の理念や方針のもと、連携して子どもたちが心地よく過ごせる第二のおうちのような園を旨として日々温かい保育をしています。今後は新人の入職も想定して、日常保育における園の決まりごとや対応方法など、だれが見ても同じ対応ができるようなマニュアルを、配付またはクラスに常備するなどして、小さなことでも確認しやすくなった時にすぐに手に取り保育に生かせるように工夫されることを期待します。

●地域支援事業に園の特長を生かし、一層の努力をされることを期待します

夏祭りや運動会、七夕、節分、ひな祭りなど園行事の日程を外の掲示板に掲示し、地域の未就園の家庭や園見学者の親子を招待しています。園は戸塚駅から徒歩1分のJR系列会社のビルテナントであるため、戸塚駅と交流があります。園の夏祭りにはJRのマスコット「電ちゃん」と駅長が来園したり、節分には駅の職員が鬼役になり園舎を回ってもらっています。また、食品会社の栄養講座に地域の方を招待しています。地域への施設開放では、園の子どもと、屋上園庭で遊んだり体操教室で交流したりしています。園は地域に根ざした、だれもが気軽に立ち寄れる「陽だまりのような保育園」を旨としています。施設開放などの参加者を増やすように、園の特長を生かし、一層の努力をされることを期待します。

《事業者が課題としている点》

保育の実施内容について、子どもや保護者にとってさらに過ごしやすい温かい保育園を旨とするを課題としています。職員がこれまでの経験を生かしつつ身につけていくべきことを考え、「気づける」保育者を旨とし、保護者から気軽に意見をもらえるシステムを模索するとともに、「園とともに育てる」意識をさらに高めていきたいと考えています。また、地域支援機能について、地域に根ざした、だれもが気軽に立ち寄れる「陽だまりのような保育園」を旨とすることや、職員の専門性の向上について、職員一人ひとりが周りの職員とともに成長することを意識して、意見交換ができる環境を整えることも課題としています。

評価領域Ⅰ 子ども本人の尊重

評価分類Ⅰ－1 保育方針の共通理解と全体的な計画等の作成



園では、保育理念として「のびやかに育て だいちの芽」、保育方針として「みとめ愛 みつめ愛 ひびき愛」、保育目標として「自然を愛し、心身ともに健やかな子ども」「自分で考え行動し、意欲と根気のある子ども」「仲間と関わり、人を思いやれる子ども」「自己を表現できる子ども」を掲げ、子ども本人を尊重したものとなっています。これら理念や方針、目標は、「めざす保育園像」とともに全職員や保護者がいつでも見られる園内各所に掲示され、保護者に配付している入園のしおりや重要事項説明書に明記し、入園時や進級時などにも説明しています。職員は本社の研修や職員会議、園内研修などで確認し合い、より深く理解したうえで保育の実践に生かしています。

「全体的な計画」は、保育理念や保育方針、保育目標に基づき、子どもの最善の利益を第一義に作成されています。年度末に保育課程を見返しながら園長と主任が素案を作り、全職員の意見を募って完成させました。全体的な計画の作成にあたっては、改定された保育所保育指針を反映し、特に年齢ごとの保育内容の充実を図りました。また、家庭の状況を考慮するとともに、園周辺の地域環境、自然や地域資源、商業施設、戸塚駅、系列園、他保育園とのかかわりや、地域支援なども考慮のうえ作成しました。全体的な計画については、園長が入園時や年度初めの懇談会で保護者へていねいに説明し、改定などがあれば随時説明しています。

全体的な計画に基づき、年齢ごとに「年間指導計画」「月間指導計画」「週案」を作成しています。また、0歳児から年齢ごとの「食育年間計画」を作成し、子どもたちが食材を見たり、触れたり、クッキングをしたりすることを通して、食事を楽しめるように意見を出し合い工夫をしています。3～5歳児合同の朝の会では1日の活動予定を子どもに伝え、各クラスの当番の子どもが今日がんばりたいことを発表し、帰りの会で今日がんばったことを発表しています。日々の活動では子どもたちの表情や様子を見て意思をくみ取り、興味のあることから保育に展開するよう心がけています。子どもの気持ちや意見、自主性を尊重し、計画は柔軟に変更し、子どものやりたい気持ちを大切にしています。

評価分類 I - 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



入園にあたっては入園説明会と個別面談を行っています。園長や栄養士、看護師による個別面談では、保護者が記入した「児童調査票」や「児童健康調査票」、年齢に応じた「調査票」を基に家庭の状況や子どもの様子、発達状況、生育歴や既往歴などについて細かく確認しています。面談で保護者から聞き取った情報や保育上注意することなどは「入園面談チェック表」に記録しています。個別面談にはできるだけ親子で来てもらい、子どもの遊び方や親子のかかわり方についても観察しています。面談で得た情報は職員会議などで共有して共通理解を図り、保育にあたっています。記録類は子どもごとにファイリングして事務室に保管し、共有しながら日々の保育に生かしています。

入園時には短縮保育(慣れ保育)を実施しています。5日を目安に子どもの様子や保護者の事情を考慮しながら進めています。新入園の0、1歳児については、気持ちが安定するよう主担当保育士を決めています。心のよりどころとなる縫いぐるみなどの持ち込みも認めています。保護者との日々の情報交換は、送迎時の会話のほか、0～2歳児では毎日複写式の連絡帳を使用して睡眠や排泄、食事を含む子どもの様子や状態などについて細かく連携しています。3～5歳児では必要に応じて連絡帳を使用しています。新入園児の受け入れでは、新しい友達が仲間入りすることを在園児に伝え、期待をもって迎える工夫をし、子どもが不安定な場合にはフリーの職員がサポートに入るなど配慮しています。

クラスごとの年間指導計画や月間指導計画、週案は、担任が子どもたちの様子や発達状況などを踏まえて作成し、主任がチェックし助言や指導を行い、園長が最終承認をしています。月1回の職員会議やクラス会議、日々の午睡中に実施するミーティングなどで、担任や園長、主任、副主任らが子どもたちの様子や発達状況などを話し合い、子どもたちの自主性や主体性を尊重しながら計画の評価や見直しを行っています。日ごろから送迎時の会話や連絡帳で保護者と連携して、また、懇談会や行事後に実施するアンケート、個人面談などからも保護者の意向をくみ取る努力をしていて、保育の計画に保護者の意向を反映するよう努めています。

0歳児では一人一人の表情から気持ちをくみ取り、子どもの話す喃語を優しく聞き、目と目を合わせてゆっくり語りかけ、信頼関係を築いて子どもが安心感を得られるようかかわっています。1対1でかかわることも心がけ、子ども一人一人の生理的、心理的欲求を満たして心地よく過ごせるよう配慮しています。保育室には畳コーナーがあり、ソフトマットや低い可動棚、手作りパーテーションなどで環境を整え、子どもがハイハイや腹ばい、つかまり立ちなど十分に体を動かせる工夫をしています。また、絵本のほか、壁面の引っ張りボードやダンボール製の手押し車など子どもが興味を持って遊べる手作りおもちゃなども用意されています。保護者とは密に連携し、保育に生かしています。

1、2歳児では自分からやる気になるような環境を整え、声かけをして見守るなど、自分でしようとする気持ちを大切にする保育を行っています。子どもの体の状態や機嫌、食欲などについては十分観察し、子どもに合わせた対応をしています。子どもの年齢や一人一人の発達に応じて全身を使う遊びができるよう、柔らかいウレタン積み木や、マットで作った山を登ったり降りたり、階段の上り下りの練習をしたり、散歩で行く公園を選んだり、活動の工夫をしています。探索活動では自然豊かな公園のほか、戸塚区役所の庭も子どもたちに人気で、川のメダカを見たり草や花に触れたり楽しんでます。職員は子どもが友達と自然にかかわれるよう気持ちをくみ取ったり代弁したりして優しく仲立ちをしています。

3歳児では日々楽しんでいる遊びから運動会の競技や発表会の出し物に発展させています。4歳児では集団の中で自分の考えを話したり友達の考えを聞いて一緒に遊ぶ方法を決めています。5歳児では造形活動の中で個々に好きなものを作り、それを互いに認め合い一つの物に仕上げるなどの活動に取り組んでいます。日々、戸外活動を取り入れ元気に活動しているほか、3～5歳児は月2回外部講師による体操教室で、年齢や発達に応じてボール運動や鉄棒、マット、跳び箱、縄跳びなどに挑戦し、運動会前にはバルーン競技やリレーの練習に励むなど、体を動かす活動を積極的に行っています。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識して日々の遊びや活動を行っています。

評価分類 I - 3 快適な施設環境の確保



清掃は毎日、各所を担当制で行いチェック表で管理するなど、園内外とも清潔に保たれています。保育室には窓があり採光は良好です。各保育室に温湿度計やエアコン、加湿器付き空気清浄機、床暖房が設置されています。全館24時間自動運転の換気が行われ、さらに窓を開けての換気もこまめに行っています。保育室内の温湿度はクラス日誌に記録され、園内は職員の管理のもと子どもたちにとって快適な環境となっています。園長は職員に「言葉のシャワーにならないように」と伝えていて、子どもへの声のかけ方や声量について確認し合っているほか、ドアの開閉や音楽再生などで気になることがあれば互いに声をかけ合い、それぞれの保育の妨げにならないよう配慮しています。

0歳児の保育室横に沐浴設備と温水シャワールームが備えられています。2～5歳児の共有トイレの奥にも温水シャワールームが設置されています。子どものおむつかぶれやその予防、汗をかいたときや体が汚れたときなどに使用して、子どもの清潔を保っています。夏季には子どもが散歩から戻ったり室内で体を動かす活動をした後に、沐浴やシャワーで汗を流し着替えをしています。温水シャワーは屋上園庭にも設置されていて、夏期に屋上園庭に設置されるプールで遊んだり、低年齢の子どもがたらいで水遊びをするときなどに使用しています。沐浴設備や温水シャワー設備は、掲示されている清掃手順に沿って、使用するたびに清掃と消毒を行うなど清潔に管理しています。

0～2歳児保育室では可動の低い棚やパーテーション、ソフトマットを使用して、落ち着いて遊べるよう小さなエリアを作るなど工夫しています。3～5歳児の各保育室では子どもが選んでじっくり自由遊びができるよう、絵本やままごと、机上遊びなどのコーナーを作っています。食事と午睡については、0～2歳児は各保育室内をエリア分けして使用し、3～5歳児は各クラスで食事をした後、一緒に空間に集まり午睡をしています。異年齢の子どもとの交流は、朝夕の合同保育の時間や月1回の誕生会、七夕、節分、ひな祭り、発表会などの行事で一緒に過ごすほか、クリスマスバイキングで3～5歳児と一緒に食事を楽しみます。5歳児は当番制で0～2歳児クラスの食事や寝かしつけなどの手伝いもしています。

評価分類 I - 4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



0～2歳児については、クラス会議で話し合い、子ども一人一人について毎月「ねらい」「内容・子どもの育ちと配慮」「家庭連絡・支援」と保育士の「自己評価」欄を設けた「個別月案」を作成しています。3歳児以上で特別な配慮を必要とする子どもについては、クラスごとの月間指導計画の中の「個別配慮欄」で個別の様子や計画を記し、必要に応じて子どもごとに毎月「個別月案」を作成しています。個別の指導計画は、家庭の状況や保護者の要望、子ども個々の課題を考慮して作成しています。子どもたちの様子や発達状況などは、毎月の職員会議やクラス会議、日々のミーティングなどで話し合い、保護者と密に連携しながら柔軟に変更や見直しを行っています。

子どもが就学する小学校に保育所児童保育要録を送付しています。入園時に把握した家庭の状況や子どもの様子などについては、児童調査票や児童健康調査票などに記録されています。入園後の子どもの身体測定や健康診断の結果などについては「けんこうのきろく」に記録しています。発達状況を年齢に応じて「生活」「運動」「人間関係」「言葉」「環境」「表現」などの項目ごとに細かくチェックし、年度を4期に分けて子どもの様子を記録する「発達経過記録」も子どもごとに作成しています。これらの記録は個人ファイルに保管し事務室で管理し、全職員で情報共有して保育に生かし、進級時の申し送りに使用し、転園時には区役所経由で転園先に内容を伝達しています。

評価分類 I - 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



特に配慮を必要とする子どもについて、保護者や戸塚区こども家庭支援課と相談しながら積極的に受け入れる体制ができています。配慮を必要とする子どもの様子や状況は、職員会議やクラス会議、パート会議、日々のミーティングなどで話し合い、議事録を作成し全職員に回覧して周知しています。また、本社から臨床心理士による月1回の巡回相談があるほか、外部研修に積極的に参加し専門知識を高めるよう努め、本社園長会や戸塚区園長会、栄養士会、看護師会などでも情報を収集しています。外部研修や巡回相談などで得た情報は職員会議などで報告し、研修報告書や議事録類は回覧して情報共有し、保育に生かしています。記録類は職員がいつでも確認できるように事務室で保管しています。

園は鉄筋コンクリート造りの建物の3～5階部分にあり、エレベーターや車いす対応のトイレを備えたバリアフリー構造となっています。障がいのある子どもについては保護者の同意を得て戸塚地域療育センターや戸塚区こども家庭支援課などと連携し、保護者と毎日連絡帳でも連携して保育を行っています。障がいのある子どもごとに毎月作成する「個別月案」では、「ねらい(養護・教育)」「内容・子どもの育ちと配慮」「家庭連絡・支援」を記し、「自己評価」で振り返り次月へつなげています。職員会議やクラス会議、日々のミーティングなどで障がいのある子どもの様子や状況について話し合い共有し、特性を理解し尊重しながら、ほかの子どもと自然にかかわれるように配慮しています。

虐待の定義や対応方法について、資料を全職員に配付し周知しています。全職員が、日ごろから虐待の予防や早期発見のために、登降園時の親子の様子や出欠状況、子どもの保育中の様子、身につけている衣類、着替えの際の観察などで気になることがあれば随時、主任や園長に報告し、対応について話し合っています。登園時に気になることがあれば、園長または主任が直接保護者にヒアリングを行っています。虐待の疑いが生じた場合、必要に応じて南部児童相談所や戸塚区こども家庭支援課などの関係機関へ通告し連携する体制があります。また、支援や見守りの必要な家庭については、日ごろから悩みをこまやかに聴き、信頼関係を築き、職員間で情報共有しながら個別に配慮し対応しています。

アレルギー疾患のある子どもについては必ず医師による「生活管理指導表」を提出してもらい、保護者と密に連携しながら適切に対応しています。食物アレルギーがある場合は、月末に、アレルギーのある子どもごとの次月分の献立表を保護者に配付し、内容を確認してもらい、除去食を提供しています。除去食の提供にあたっては、アレルギーボードを使用して給食担当がチェックし、担任への受け渡し時、クラスでの配膳時など複数回チェックを行い、子どもの名前が付いた色の違う専用トレイと専用食器を使用するなど誤食防止に努めています。全職員にアレルギーに関する情報の周知に努め、誤配や誤食をしてしまった万一の場合を想定した「アレルギー訓練」も実施しています。

文化や生活習慣、言語の異なる家庭の子どもを受け入れにあたっては、戸塚区こども家庭支援課と連携し、面談を行って相互理解を深め信頼関係を築いて、子どもが園生活をスムーズに送れるよう配慮しています。給食の献立で食べられない食材があれば、相談のうえ個別に対応しています。また、ほかの子どもたちと自然にかかわれるように配慮して、世界の国旗を用いたパズル遊びで、「これ、ぼくの国だよ」「これはどこ？」などと子どもたちが互いに興味を持ってかかわる姿も見られました。言語の違いから子どもや保護者との意思の疎通が難しい場合は、わかりやすい言葉でゆっくり伝えたり、絵カードを用いたり工夫して、必要に応じて通訳を介するなどの対応をしています。

評価分類 I - 6 苦情解決体制



保護者からの要望や苦情に関しては、受付担当者は主任、解決責任者は園長が務めていて、外部の第三者委員の氏名と連絡先、戸塚区こども家庭支援課の連絡先とともに、入園時に保護者へ配付する入園のしおりに明記し、保護者に説明し周知しています。外部の権利擁護機関の案内も掲示しています。保護者に対しては、送迎時の会話や連絡帳、年2回の懇談会と個人面談や、懇談会や運動会、遠足、発表会など保護者参加行事後のアンケートなどにより意向をくみ取る努力をしています。また、意見や要望を投函できる「すまいるBOX」を事務室前に設置し、行事の出欠票やアンケートの回収にも使用することにより保護者が利用しやすいよう工夫しています。

要望や苦情への対応について記された「にじいろ保育園苦情等解決システム」を職員に配付し、園内掲示しています。保護者から要望や苦情があった場合、必要に応じて第三者委員や外部の権利擁護機関を交えて対応する体制ができています。相談や要望、苦情があれば、速やかに受付担当者の主任、解決責任者の園長に報告し、園内で対応できる相談は「育児相談記録票」を、本社と対応すべき要望や苦情は「苦情報告書」を作成し、内容に応じて速やかに話し合い対応しています。内容と対応方法は職員会議などで職員に伝え、回覧も行って周知し、保護者へは園だよりなどで周知を図っています。育児相談記録票や苦情報告書は年度ごとにファイルし、その後の解決に生かしています。

評価領域Ⅱ 保育の実施内容

評価分類Ⅱ-1 保育内容【遊び】



おもちゃは、どの保育室も取り出しやすいように種類ごとに低い棚にしまっており、子どもが興味を持ちやすい年齢に見合うものが用意されています。例えば、0歳児クラスでは、ひもを引っ張るものや、大きさの異なる穴にボールを落とす箱など職員の手作りおもちゃが壁に掛けられ、1～3歳児はキッチンセットなどごっこ遊びのおもちゃ、4、5歳児はルールのあるゲームなどを用意しています。遊ぶ時にはいろいろなコーナーを作り、子どもが自分のしたい遊びに集中できるように環境を整えています。一斉活動の前後は自由な活動ができる時間帯で、子どもたちが思い思いのコーナーで自由に遊んでいます。

子どもたちの「〇〇したい」という気持ちや、興味を持っていることを見逃さず、遊びの内容に応じて机や敷き物でコーナーを作って遊びに集中できるようにしています。日常的にも、「〇〇がしたいから〇〇公園に行きたい」など子どもの目的を持った自発的な気持ちを大切にしています。一斉保育の時間や縦割り保育の時間には、鬼ごっこなどルールのある遊びを取り入れて、年上の子どもが年下の子どもに合わせたルールを考えるなどして遊んでいます。子どもが塗り絵の裏を使って迷路を作り、その迷路に合わせて物語やゲームを作ることがあります。このような発想がさらに広がるように、職員はおもちゃを用意したり、言葉がけをしたりしています。

ピーマンやなす、オクラ、トマトなどを栽培しています。それらを使い年齢に応じて野菜スタンプをしたり、栽培の様子を記録したり、なすの花の生育を絵にしています。また、飼育しているバツタの脱皮や、カタツムリの休眠の様子を身近に見ることで、命の大切さを学んでいます。散歩先では虫や川の魚、鳥を探すなど探索を楽しんだり、自然と触れ合い、行き交う人たちと挨拶を交わしています。園は駅に近いことから、3歳児が入場券を買ってホームまで行ったり、4歳児は電車やバスを使い出かけ公共のマナーを学んでいます。さらに、近隣のスーパーマーケットに買い物に行き、商品の選別や支払いなども体験しています。

園には、専門リーダーという担当職員がいて、毎月の歌や手遊びなどを提案し、年齢に見合った遊びを楽しめるようにしています。0～2歳児はできるだけ感触を楽しめる遊びなどを行い、4、5歳児は月に1度造形教室があります。訪問時は公園で拾った木の実などを使ったみのむしや、季節を感じさせる製作物がクラスごとに廊下に掲示されていました。3～5歳児クラスはクレヨンやのり、いろいろな種類の紙などが自分で取り出せるようになっており、製作や絵画を自由に楽しむことができ、空き箱や空きパック、新聞紙などの廃材も自由に取り出せるようになっています。トライアングルや鈴などの楽器も自由に使えるようになっていて、子どもたちが楽しく過ごせるように環境を整えています。

0～2歳児のけんかは、興味を違う方向に持って行くなど配慮しています。3～5歳児のけんかは、子どもの気持ちに寄り添い、仲立ちをして、どうしたら解決できるか一緒に考えるようにしています。異年齢では縦割り活動のほかに、5歳児が2名ずつ2、3歳児クラスの配膳や着替えを手伝うなどして、年下の子どもへのいたわりの気持ちをはぐくんではいます。また、年下の子どもは、年上の子どもに対するあこがれが生まれ、遊びなどもまねをして楽しんでいます。保育ガイドの中に、子どもに対する接し方や言葉使いについて定めたものがあり、職員は毎月の園内研修などでNGワードをテーマにして話し合っています。訪問時も職員は穏やかに子どもたちと会話をしていました。

十分に体を動かして遊べるよう、天気のよい日にはできるだけ戸外に散歩に出るようにしています。近隣には自然豊かな公園や遊具のある公園などさまざまな公園があり、目的に合わせて散歩に行っています。屋上の園庭では縄跳びやフープ遊び、鬼ごっこなどもできます。プールの際には日よけをし、戸外に出るときには必ず帽子をかぶり、子どもの健康状態に配慮しています。雨天時でも室内でマットや平均台、サーキット遊びなどで体を動かして遊ぶことができるよう配慮しています。体調がすぐれない子どもや、保護者からの希望で散歩やプール活動ができない子どもは、室内で体の負担にならない遊びをするなど配慮しています。



園では子どもに、無理に食事を勧めることはしません。「食べられたね」など褒めることで、子どもの食事が楽しいものになるようにしています。子どもたちが食に関心が持てるよう、食育を行っています。子どもたちが苗を買って育てた野菜は、苦手意識があっても食べてみようという自発的な気持ちに結びついています。4、5歳児からは給食の当番が盛り付けをしています。園の調理室はガラス張りです。子どもたちは中の様子が見えたり、給食の香りを身近に感じることができます。授乳は子どもの目を見ながら優しく声をかけて行い、子どもの登園時間などに配慮して食事前に睡眠をとるなど、個別に配慮しています。

調理担当職員は、園での食事を楽しんでほしいと考えています。そして、季節を感じる食材や、素材の切り方などに配慮して目でも楽しめる給食を提供しています。例えば、端午の節句にはこいのぼりの形をしたサンドイッチや、星形に型抜きされた具材が入った七夕そうめんなどがあります。3～5歳児クラスはクリスマスでバイキングを楽しんだり、気分転換で廊下を利用して食事をするなど工夫しています。食器は強化磁器を使用し、年齢ごとに深さや大きさを分けています。保護者アンケートで子どもの箸の使用状況を把握し、3歳児からスプーンやフォーク、箸を用意しています。

献立は2週間サイクルで作成しています。調理担当者は毎日子どもの食事の様子を見に行き、子どもと「これは苦手なの」「おいしい」などコミュニケーションをとり、喫食状況を見ています。また納品された食材を持ってクラスを回り、触れる、においを嗅ぐなどの体験を通じて、子どもたちに食材への興味がわくように配慮しています。以前、きのこのあえものを提供したところ残食が多かったため、ハンバーグに混ぜてきのこを使うなど、食材の使い方を変えて工夫しました。月に1度、クラスごとに喫食状況や食育に関することをまとめて、栄養士に提出し、フィードバックでコメントをもらい、子どもたちの食の情報を共有しています。

毎月月末に翌月の献立表を配付しています。献立表には、「血や肉になるもの」「熱と力になるもの」「身体の調子を整えるもの」など3色の食品群に分けて食材を掲載しています。また、毎月給食だよりを発行し、旬の食材の紹介やクッキング保育の報告をしたり、献立作成のアドバイスを載せています。毎日給食のサンプルを事務室前に置き、保護者が園で提供している食事に関心が持てるよう配慮しています。給食試食会では、子どもの食事の様子をスライド上映し、アンケートを実施しています。また、4月に離乳食の試食会を実施しており、栄養士が離乳食について相談に応じたり、アドバイスをする機会を持っています。

午睡のときにはカーテンをひいて少し室内を暗くしています。心地よい眠りにつけるよう、体をとんとんするなどして職員がそばについて寝かしています。0、1歳児クラスでは、抱っこやおんぶなど、子どもが安心できる眠り方を見つけるようにしています。午睡の前には子どもの気持ちが落ち着くような絵本の読み聞かせを行っています。早めに起きた子どもは、本を読んだり積み木をしたりして静かに遊んでいます。乳幼児突然死症候群(SIDS)を防止するため、0歳児は5分おき、1歳児は10分おきにタイマーをセットして呼吸と体勢のチェックをしています。5歳児は就学に向けて、その時の子どもの発達に合わせて、1月ごろより午睡時間を減らしています。

排泄は、おやつの後、活動の後、食事の後、午睡の後など、活動の節目に誘っていますが、子どもの様子で声かけもしています。トイレトレーニングのときには、個々の排尿間隔を把握し排泄に誘うようにし、連絡帳で保護者と連絡をとりながら、一人一人の発達状況に合わせて対応しています。子どもがおもらしをしたときには、周りからなるべく目につかないところで着替えるとともに、おもらしをしたことを悪いことと感じさせない対応をしています。

園は、利用者にとって「第二のおうち」として園を感じてほしいと思っています。延長保育時には子どもが落ち着いて過ごせるように、ついたてや牛乳パックで作った仕切りなどで小さなスペースを作り、少人数でくつろいで過ごせる空間を作ったり、長時間保育で使うおもちゃを用意しています。18時30分以降は補食や夕食を提供しています。クラスごとに伝達表があり、保護者に伝えることなどが記録され、職員間で連絡漏れのないようにしています。伝達表は朝、事務室に置かれ、職員全員が必ず目を通し、担任以外も昨日からの子どもの様子を把握できるようにしています。職員は口頭や連絡帳でも保護者とやりとりをして信頼関係を築いています。

評価分類Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理【健康管理】



マニュアルの「保育衛生」の項目に「保育園における保健業務」など健康管理に関する内容があり、そこには朝の健康観察や健康診断、症状が出たときの対応などについて記載されています。入園時の面接で得た情報や、日々の保護者とのやりとりから、子どもの健康状態や既往症について把握し、児童健康調査票に記載しています。子どもが熱を出したときには保護者に連絡し、保護者が迎えに来るまでの様子を保護者に伝え、降園後の対応について話し合っています。歯磨き指導は0、1歳児は食後にお茶で口をゆすぐことから始め、2歳児から歯ブラシを用いて歯磨きをしています。月に1度看護師が歯磨き指導をクラスごとに行っています。

健康診断は全園児年2回、歯科健診を年1回実施しています。健康診断は、「けんこうのきろく」に記載され、診断当日に保護者に確認してもらっています。保護者には、健康診断で聞きたいことがあれば職員を通じて医師に相談できることを掲示板で伝えています。健康診断当日受診ができなかった場合は、ほかの日に園医が来園し受診することができます。園医から健診時の子どもの様子や皮膚の状態などについてアドバイスがあったり、職員も気になることを聞くなどしています。さらに、保護者の疑問や要望、職員が見た子どもの園での様子などから専門機関につなげ、連携が取りやすい体制が作られています。

「感染症マニュアル」「保育所における感染症対策ガイドライン」に沿って予防や対応をしています。入園のしおりに登園停止基準について記載し、入園説明会などで保護者に説明しています。感染症の流行時期には、園だよりや保健だよりで知らせ、感染症について理解を深めてもらえるよう配慮しています。保育中に発症した場合には、保護者へ連絡し、事務室などで対応してお迎えを待ちます。園内で感染症が発生した場合には、インターネット上の伝言板を用いて全世帯に通知しています。本社の看護師会や戸塚区の看護職会などから感染症の最新情報を得て、ミーティングなどで職員に伝えています。職員も感染症対策の研修に参加して感染症の知識を深めています。

評価分類Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理【衛生管理】



「看護師ガイド」を用意し、事務室に設置しています。その中には嘔吐処理の仕方や衛生管理、清掃について記載されています。マニュアルは社内の看護師会を中心に年1度見直しを行い、改定時には職員に周知しています。マニュアルに基づいて清掃しており、チェック表を用いて毎日チェックを行い、園内は清潔な状態が保たれています。おもちゃなどの消毒も毎日行っています。嘔吐処理の備品は各保育室に設置されています。子どもたちにはブラックライトを使って手洗いの指導をしています。来園者や見学者も必ず玄関で手洗いと消毒をするなど、日常的な衛生に関しても注意喚起を促しています。

評価分類Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理【安全管理】



「安全管理マニュアル」が作成されています。そして事故、プール活動時の対応、災害の対応などについて職員に周知されています。保育室の棚の上に置いてあるものには滑り止めマットを敷いたり、可動式ロッカーはストッパーをかけるなどして転倒防止対策をしています。毎月、地震や火災などさまざまな状況を想定して避難訓練を実施しています。園外への避難訓練や保護者参加の引き取り訓練、伝言ダイヤル訓練を行っています。園にはAED(自動体外式除細動器)を設置しています。また、消防署の救急救命講習などを受け、全職員が対応できるよう取り組んでいます。事故の際、保護者へ確実に連絡できるよう、複数の連絡先を把握しています。

地域の医療機関の一覧表を事務室に用意し、すぐに対応できるようにしています。保育中に子どもがけがをしたり、事故が起きた場合には、小さなけがでも保護者に報告しています。直接担任から報告できない場合にも、口頭や伝言表に記載して引き継ぎ、保護者に伝えています。事故が起きた場合には、報告は状況に応じて「ひやり・はっと報告書」「アクシデントリポート」「事故報告書」のいずれかに記し、園だけでなく系列園全体で共有しています。ひやり・はっと報告書については、写真も撮り、専門リーダーが統計を取り原因からどのような対策を取ればよいかを検討し再発防止に努めています。

来園者はインターフォンカメラで事務室で確認し園内からリモートで解錠しています。警備保障会社と契約し、防犯カメラも数台設置して事務室でいつでも見ることができるようになっています。クラスごとに警備会社につながるリモコンがあります。不審者対応の訓練を行い、子どもたちには日々の活動の中で、知らない人にはついて行かないなど自分の身を守ることも伝えています。不審者の情報は戸塚区防犯情報メールやJR駅ビル、近隣の学校、本社から得ています。緊急時に使用されるインターネット上の伝言板でも、保護者に不審者情報を直接伝えています。



子ども一人一人の人格を大切に考え、常に穏やかな声かけをしながら子ども個々のペースや意思を尊重し、子どもの気持ちに寄り添う保育を目ざしています。職員会議や園内研修でも、子どもに対する言葉使いや好ましい態度、冗談でも子どもを辱めるような発言をしてはならないことなどについて、全職員で考え話し合い見直す機会をもっています。子どものつぶやきも聞き逃すことなく、子どもの「やりたい」「やりたくない」それぞれの気持ちに寄り添い、自分からやりたくなるような言葉かけを心がけています。しかる場合にはわかりやすく短く伝え、繰り返し同じ話をしないようにしたり、行動に間違いがある場合はその子ども自身がどのようにすれば良いのか考えられるように伝えています。

子どもが1人になりたかったり、1人でじっくり遊びたいときに対応できるよう、周りから見えない空間を意図的に作っていて、各保育室にあるコーナーや、1、3歳児室にある子どもが1人入るのにちょうど良い大きさに手作りしたダンボール製の箱などを活用し、職員は必要に応じて声をかけながら子どもの様子を見守っています。子どもと1対1で話し合うときには、職員は子どもの自尊心やプライバシーに配慮して、廊下や使用していない保育室、階段の踊り場、事務室などほかの子どもがいない場所で、ゆっくり穏やかに、その子どもにだけ聞こえるような声の大きさでかかわるよう心がけています。子どもの着脱やおむつ交換などでも、子どもの羞恥心やプライバシーに配慮しています。

個人情報の取り扱いや守秘義務の意義、目的については就業規則に明記され、入職時の研修で全職員に説明して周知し、誓約書を提出してもらっています。実習生やボランティアについても受け入れ時に説明し、誓約書を得ています。保護者に対しては入園時に個人情報の取り扱いについて利用目的や範囲などを説明し、内容によって使用の可否をチェックできる「個人情報使用承諾書」の提出をお願いしています。子どもの顔や名前の掲示や表記方法についても配慮しています。子どもや家庭の状況などを記した個人情報に関する記録類は、事務室の鍵のかかる書棚で保管し持ち出し禁止とし、パソコン内のデータはパスワードを設定して管理し、持ち出せないようにUSBの使用は禁止しています。

性差については、保育中の並び順やグループ分け、身につけるものなどで区別することはありません。描画や製作においても子どもたちが好きな色を選び、発表会で披露する内容や配役についても子どもたちの個性や気持ちを尊重して決めています。自由遊びの時間にはブロックやままごとなど、性差に関係なく子どもは思い思いの遊び方で楽しんでいます。また、子どもや保護者に対して、父親、母親の役割を固定的にとらえた話はしていません。無意識に性差による固定観念で子どもにかかわる様子を見かけたら、職員間で声をかけ合ったり職員会議などで確認し合うようにしています。



保育理念や保育の基本方針は、パンフレットや入園のしおりに明記し、入園説明会では入園のしおりに沿って説明しています。在園児の保護者には、年度末の保護者懇談会において、次年度の体制や方針について伝えるとともに、理念や基本方針について説明しています。また、行事前後にアンケートを実施し、保育方針に沿った行事内容や活動についての感想を聞いてファイルし、保護者の理解度を把握しています。さらに、理念や基本方針を年度初めの園だよりに掲載し、クラスだよりにはクラスごとの月の保育のねらいなどを記載し、園の保育方針について理解してもらえよう努めています。

事務室入り口のデジタルフォトフレームではクラスごとの子どもの様子が流れています。子どもの送迎時には保護者に子どもの様子やエピソードを伝えるようにしています。連絡帳には、0～2歳児クラスでは毎日、睡眠や排泄、食事、子どもの家庭での様子や園での様子について記載し、3～5歳児クラスでは必要に応じて活動の様子を記載しています。個別面談はクラスごと4月と11月の年2回4日間で実施していますが、強制ではありません。個別面談に参加申し込みのない保護者には、送迎時などに声をかけ、できるだけ参加してほしいと伝えています。保護者懇談会では保護者からの質問や疑問に丁寧に答え、相互理解を深めています。

相談は内容をほかの人に聞かれないよう事務室などで行い、プライバシーに配慮しています。子どもの送迎時の会話や連絡帳を通して担任保育士が相談を受けることが多いですが、相談内容は園長や主任に報告し、助言を受けたり、園長や主任が話を聞いてアドバイスをすることもあります。相談内容は保育日誌に記載し、必要に応じて会議などで全職員に周知しフォローするようにしています。継続して相談に応じることが必要な相談は、育児相談票に記して園全体で見守ってフォローしています。

毎月園だよりを発行して、今月の予定や園全体の様子、お知らせを掲載しています。また、クラスだよりにクラスごとの月のねらいや子どものエピソードなどを掲載しています。保健だよりや給食だよりも発行し、保健や食について伝えています。0～2歳児クラスはクラスのホワイトボードに、3～5歳児は事務室前のホワイトボードにその日の出来事を記載しています。クラスの外の壁ではクラスごとの写真や作品を掲示して活動内容を伝えています。保護者懇談会は年2回実施しています。年度末の懇談会で次年度の体制や保育方針について伝えています。また、日ごろ職員が撮影している子どもの写真で、顔の写っていないものを用いてブログを更新しています。

4月の園だよりと一緒に年間の行事予定表を保護者に配付して、保護者が予定を立てやすくしています。保育参観は基本的に年2回4日間行われ、事前の申し出がなくても好きな日に参観できます。また、予定している日に来ることができない保護者の都合に合わせて随時対応しています。3～5歳児クラスは「体操教室参観」があります。保育参加は参観日以外で対応し、子どもの祖父母の参加もあり、子どもと一緒に遊んだりしています。保育参観や懇談会に参加できなかった保護者には、後日口頭で懇談会の内容を伝え、園だよりもアンケートの回答とともに内容について記載し、保護者に周知できるようにしています。

保護者の自主的な活動の要請があれば、園として協力できる体制になっています。年度の2回目の保護者懇談会のあとは、保護者の自由な交流の場として、各クラスの場所を提供しています。保護者との意見交換の場として、懇談会と別に年2回開催の運営委員会があります。保護者代表4名と第三者委員2名、園長、主任、本社職員1名が参加し、園の年間計画や取り組み状況を報告し、保護者などから意見や希望を聞いています。卒園文集には家庭からもコメントをもらい、園と保護者が連携して子どもの成長や卒園を祝っています。日ごろから保護者とは、意見やアンケートを投函する「すまいるBOX」の活用や連絡帳、口頭などでコミュニケーションをとり、信頼関係を築いています。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類Ⅲ－1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供



本社の「めざす保育園像」の一つに「地域とともに育つ保育園」があり、園は地域に根ざした、だれもが気軽に立ち寄れる「陽だまりのような保育園」を目指しています。園では地域の子育て支援事業として、地域の子育て家庭を招いて、園庭開放や交流保育、育児講座などを実施しており、参加者からの話やアンケートで園への要望の把握に努めています。散歩先の公園で親しくなった地域の親子や園の見学者などからも園に対する要望を聞いています。また、育児相談を受けていますが、相談を通じて園への要望を把握しています。園長は戸塚区の園長会の部会に出席して、また5歳児担当職員は地区の幼保小連携交流会議に参加して、地域の子育て支援ニーズについて話し合っています。

地域の子育て支援ニーズについては、年間指導計画の4半期ごとの振り返りや、翌年度の全体的な計画などの作成のための職員会議などで話し合っています。園も3年目に入り、今年度より「横浜市地域子育て支援事業」として、屋上の園庭開放や、体操などでの交流保育、育児講座、夏祭りや運動会、節分豆まきなど園行事への参加を呼びかけています。園の外の掲示板にポスターを貼り、地域の未就園の家庭に向けて案内しています。交流保育では、専門講師による体操教室を園の子どもたちとともに体験しながら、親子一緒に体を動かして楽しんでもらっています。地域に向けて「栄養教室」を開き、食品会社の協力を得て、園で提供する食事の取汁の取り方を学び、栄養相談を行っています。

評価分類Ⅲ－2 保育所の専門性を生かした相談機能



園の玄関横に掲示板を設け、季節に合った飾り付けをして、園だよりや保育理念などとともに、園庭開放や園行事に地域の未就園の家庭を招待する案内を掲示しています。育児相談は気軽に来園してもらえるよう、随時受付として、園のパンフレットにも「地域活動」の中で「お気軽にご連絡ください」と記しています。育児相談票に記載された相談の内容は職員に回覧して共有し、育児相談記録としてファイルしています。園の情報は戸塚区のホームページや園のホームページなどで見ることができ、園のブログで園行事などの情報提供に努めています。

育児相談の内容に応じて関係機関と速やかに連携が取れる体制を作っています。園の嘱託医や、近隣の病院一覧のほか、戸塚区こども家庭支援課、横浜市こども青少年局、戸塚地域療育センター、南部児童相談所、消防署、警察署などの関係先一覧を、だれでもすぐに連絡が取れるよう事務室の電話の前に置き、職員に周知しています。関係機関との連携担当者は園長で、園長不在時は主任です。園長は、戸塚区こども家庭支援課の職員とは日常の情報交換を行ったり、保健師とは子どもの気になることについて相談したり、配慮を必要とする子どもについて戸塚地域療育センターに巡回を依頼したり相談したりして、関係機関とはいつでも連携が取れるようにしています。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類Ⅳ－1 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ



夏祭りや運動会など園行事の日程を外の掲示板に掲示し、地域の未就園の子どもと保護者や、園の見学者の親子を積極的に招待しています。園は戸塚駅から徒歩1分のJR系列会社のビルテナントであるため、戸塚駅と定期的な交流があります。園の夏祭りにはJRのマスコット「電ちゃん」と駅長が来園し一緒に写真を撮ったり、節分には駅の職員が鬼役になり園舎を回ってくれたり、敬老の日の戸塚駅の絵画展示に子どもの絵を飾って協力したりしています。地域の高校生の職業体験を受け入れています。地域への施設開放では、屋上園庭で園の子どもと遊んだり、手作りおもちゃを一緒に作ったりしています。ビル内の消防訓練に参加するなどテナント同士の交流に努めています。

園は駅前の商業地にありますが、少し歩くと、園にない遊具があつたり、花や自然があつたり、電車が見えたり、さまざまな公園があり、散歩に利用しています。また、駅前の戸塚区役所の屋上の広場で、区役所職員と一緒にたまねぎの収穫を行っています。戸塚図書館に紙芝居などを借りに行っています。散歩に公園に出かけた時に会う地域の方々には元気よく挨拶し交流しています。戸塚区幼保小連携事業の5歳児交流では、ドッジボール大会や遊び、運動会ごっこなどで他園と交流しています。近隣の系列園や公立園とも子どもたちが交流しています。戸塚区主催の子育て支援事業「とことこフェスタ」は戸塚区役所で開かれ、園では園紹介のパネルを展示し、子どもたちはライブを見たり、遊んだりしています。

評価分類Ⅳ－2 保育所における福祉サービスに関する情報提供



園のパンフレットには保育理念や方針、目標、定員、保育時間、保育の一日、年間行事予定、利用料金、地域支援内容、園の特長、会社概要を記載しています。また、「にじいろ保育園戸塚駅前ってどんなところ？」というカラーのチラシを作り、園の環境や保育の特長を載せています。また、本社や園のホームページでも園の情報を提供し、ブログで子どもの日々の活動の様子を伝えています。パンフレットや園紹介のチラシは園の見学者や園庭開放の利用者などに配付しています。園の情報は戸塚区こども家庭支援課や横浜市こども青少年局に提供し、それぞれのホームページに園の案内が載り、「とつか子育て応援ガイドブックまっぴい」にも園の内容が載っています。

利用希望者からの問い合わせには、入園のしおりやパンフレット、園の保育の特長を書いたチラシなどに基づいて、主に園長や主任が、園の理念や方針、利用条件、保育内容、園独自の取り組みなどをていねいに説明しています。見学の受付について園の外に掲示板にも掲示し、保育に支障のない範囲で平日午前中1時間おきに受けていましたが、希望が多く、土曜日も応じています。職員や子どもたちには事前に見学者が入ることを伝えています。見学者には、パンフレットと園のチラシを渡し、主に園長が園を案内しながら、理念や方針、利用条件、サービス内容を説明し、質問に応じています。また、屋上の園庭開放や体操教室の交流保育なども案内しています。

評価分類Ⅳ－3 実習・ボランティアの受け入れ



ボランティアの受け入れは「実習生・ボランティアマニュアル」の「ボランティア受け入れ」に基づいて、職員に受け入れの意義や手順、配慮を説明しています。園に照会があった場合には本社担当部への申し込みを案内しています。現在、地域の高校生からの職業体験の申し出があり、受け入れています。保護者には事前に園だよりでボランティアが入ることと日程を知らせています。受け入れ担当は主任または園長で、実施日前にオリエンテーションを行い、手洗いなどの衛生面や留意事項とともに、必ず守秘義務の遵守について説明し、「守秘義務に関する誓約書」を受け入れています。ボランティア終了後のアンケートを基に意見交換し、良い意見は園の運営に役立てています。

実習生の受け入れもマニュアルの「実習生受け入れ」に基づいて、全職員に受け入れの意義や手順、助言指導を含めた留意事項を説明しています。実習生の受付は本社が対応しています。受け入れは園長が担当し、現在、保育や栄養、看護を学ぶ短大生や大学生、専門学校生を受け入れています。保護者には事前に園だよりで周知を図っています。ボランティアと同様に実施前にオリエンテーションを行い、「守秘義務に関する誓約書」の受け入れを確認し、保育理念や方針、園の概要を説明しています。実習生の希望を聞き、部分実習や責任実習などからスケジュールを決めています。最終日にはアンケートを受け取り、園長や主任、担当クラス職員とともに反省会を開き、意見交換しています。

評価領域V 人材育成・援助技術の向上

評価分類V-1 職員の人材育成



園に必要な人材補充や人材育成のため、本社のスーパーバイザーまたは園長は、志望動機や過去の経歴などが記載されたヒアリングシートを基に職員と面談を行っています。毎年11月に職員は携帯端末から、来年度の継続勤務の意向調査の回答を本社に送り、結果は園長にも還元され、人材が不足する場合には原則本社が対応しています。入職時には新任研修や中途採用者研修で、保育理念や方針、社会人の心得などを学びます。主任と園長は、職員の職位や保育の経験、熟練度を基に職員の希望を取り入れ、キャリアアップなどを考慮した個人別の体系的な研修計画を作成しています。また、職員は年度初めに「成長支援シート」に2つの年度目標を定め、年2回園長と面談し、達成度の評価や指導を受けています。

本社の研修には新任、途中入社、階層別職員のスキルアップ、キャリアアップなどさまざまな研修が用意されています。職員はこれに加えて横浜市や戸塚区、大学、教育機関などの研修リストから、受講希望の研修を申請し、園長と主任を中心に受講者の選定をしています。キャリアアップや業務の必要性から受講者を指名することもあり、最終は園長が職員育成計画としてまとめています。研修の出席者は研修報告を作成し、職員会議で報告し、会議録として全職員に回覧され、周知され共有しています。非常勤職員も必要な内容は午睡時の職員会議に出席できるようにしています。園長と主任は研修報告や研修の保育への活用状況から研修を評価して、次の研修選定に生かしています。

非常勤を含めた全職員に、保育理念や日常業務を記載したマニュアル集「保育ガイド」などから主要部分を抜粋したものや配付しています。主任は職務の経験や熟練度を考慮して、常勤職員と非常勤職員を適切に組み合わせさせたシフト表を作成しています。非常勤職員も事務室で全てのマニュアルにいつでも目を通すことができ、嘔吐物処理など必要な内部研修も受講でき、職員会議議事録や研修報告書の回覧などで情報の共有と資質向上に役立てています。定期的開催するパート会議では、非常勤職員担当の園長や主任のほか、副主任などのリーダーも参加し、園が取り組んでいることを説明したり、意見や要望を聞いたり答えたりして、職員間のコミュニケーションを図っています。

評価分類V-2 職員の技術の向上



本社の成長支援制度に基づき、職員は園長とも相談して成長支援シートに2つの年間目標を設定し、年2回自己評価を行い、園長と面談して指導や助言を受け、人事考課につなげる仕組みがあります。成長支援シートは職位の等級別に書式が定型化されています。年2回の自己評価は年度初めに設定した目標と関連付けて行っています。また年度末に職員が「園の自己評価」の用紙で自己評価を行い、主任と園長が一つの園の自己評価に取りまとめています。月1回のクラス会議で意見交換したり保育の悩みを話し合うことで、さらに保育サービスの向上につなげたりしていましたが、3～5歳児合同の会議のため深みに欠けていました。これを3、4、5歳児の各クラスごとの会議に改善し、より深みのある会議となりました。配慮を必要とする子どもの保育に、毎月本社が契約した臨床心理士の巡回訪問を受け、保育技術の指導や助言を得ています。

保育の振り返りは、全体的な計画に基づいたクラスごとの年間指導計画や月案、週案・日誌の自己評価欄に記入しています。保育の振り返りは、「行事の練習ではほめられるとよりほめられたいと頑張ったり、意識も上がると感じた。今後も頑張りを認めながら少しずつ前へ進めたい」とあるように、結果ではなく取り組む意欲や過程を重視して行っています。職員は振り返りを通して、実践の改善や、次の計画作成につなげています。

にじいろ保育園の保育の標準となる内容を、理念や保育計画、保育内容など13の大項目ごとにまとめた職員の自己評価用紙「にじいろの保育」があります。職員は年度末に「にじいろの保育」の項目にチェックを入れて自己評価し、結果を職員会議で話し合い、課題を明らかにしています。明らかとなった課題は次年度の全体的な計画の作成に生かしています。保育所としての自己評価は、園長と主任が、各職員が行った「にじいろの保育」を分析し参考にして、園の取り組みや運営状況を加味し、本社が作成した「保育園の自己評価」の様式にまとめています。「保育園の自己評価」は、職員会議で全職員に確認して周知し、ファイルに入れて玄関で公表しています。

評価分類V-3 職員のモチベーションの維持



保育理念や方針、目標に基づき、園長は職員個人別に本社研修や外部研修などを受講する人材育成計画を策定しています。また、職員は本社の成長支援制度により、園長と相談して2つの年度目標を設定し、年2回園長と面談して達成度などの一次評価を受けています。その後本社のスーパーバイザーと面談して二次評価を受け、賞与や昇進、昇格などにつなげています。本社の最終結果は職員個人に開示しています。開園3年目で絵本もそろってきたので、今年度から絵本の貸し出しを始めましたが、図書係の職員から貸し出しを週1回に増やしたいと申し出があり、意見を取り入れて実行したところ、保護者から好評で利用者増につながりました。

本社が作成した「成長支援制度手引き」には、等級制度の項目で、職員の等級区分を業務担当者から全体統括まで5つに分け、それぞれの等級に求められる役割と、必要となる行動や能力を一覧表で明文化しています。園の運営の最終責任者は園長ですが、日常の業務は現場の職員の自主的判断に任せています。しかし、けがや事故、苦情、対外的なことが発生した時は、直ちに園長や主任に報告、連絡、相談するよう徹底しています。職員会議の議題について、園長があらかじめ議題一覧を作り、職員に配付し、会議で意見や提案が出やすいようにしています。園長は年2回の個別面談などで、職務の満足度や希望、悩みなどを聞き、対応しています。携帯端末による職員の意向調査での自由意見も、本社を経由し把握しています。

評価領域VI 経営管理

評価分類VI-1 経営における社会的責任



職員は主要な業務のマニュアル集「保育ガイド」などで、また新入職員と中途採用の職員は本社の研修で、子どもの人権の尊重や、個人情報保護、守秘義務、職員が不正や不適切な行為を行わないよう守るべき法、規範、倫理などを学んでいます。世間で発生した子どもの虐待などの人権侵害事例は、新聞や本社の情報をもとに園長がミーティングなどで話し、早期発見と対応方法の確認をしています。また本学園長会や戸塚区園長会などで情報提供のあった他施設の不祥事の実例を職員会議などで報告し、園で起きないように啓発しています。会社や園の決算情報は、今後の情報公開を期待します。

事務や経理の取り扱いについては「運営規定」「経理規定」に基づいて行っています。園の「職務分掌」には、園長や主任、副主任、専門リーダー、職務分野別リーダー、保育士、看護師、栄養士、調理員の職責ごとに、その職務と業務内容を明確にしてあり、全職員に配付しています。園長や主任は定期的に経理の実査を行い、現金出納帳などに誤りがないか確認しています。また、毎月末に本社財務に現金出納帳や入金帳、領収書の原本を送付し、本社で内部監査点検を実施しています。本社が委託している公認会計士や社会保険労務士からは、園の運営や管理について本社を通じて必要な指導や助言を受けています。

園の事業計画や事業報告に「環境への取り組み」の項目を設けて運営しています。事務室前に園の「環境問題の取り組み」や「夏季における節電対策」の表明文を掲示しています。「ごみの減量化」ではごみの分別管理や、紙箱でない詰め替え式のティッシュペーパーを使用したり、「リサイクル」では保護者の協力も得てペットボトルや牛乳パック、菓子箱、段ボールなどを集めて工作材料にしたり、広告紙を自由遊びの折り紙に使ったりしています。「省エネルギー」では床暖房やエアコンの温度管理をし、夏の屋上園庭の日よけ設置や、プールの水を栽培の水やりに使用するなど、節電や節水に努めています。屋上園庭で育てる夏野菜や朝顔のグリーンカーテンで緑化の推進意識を培っています。

評価分類VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等



保育理念や保育方針、保育目標を入れたフレームを、エレベーター前や階段踊り場、各保育室、事務室、トイレに掲げ、いつでも職員や保護者の目に触れるようにし、園の外の掲示板にも掲げて地域の方々にも知らせています。全職員に配付した入園のしおりや、全体的な計画などを基に、年度初めの職員会議などで理念や方針、目標を確認しています。職員は年度末の「にじいろの保育」を用いた自己評価で、理念や方針、目標の理解度を確認しています。また、園長は年2回の個別面談の時などに、職員が理念や方針、目標を理解して業務に努めてきたか確認しています。

園の運営状況の報告や計画説明、重要な意思決定、運営上の大きな変更がある時には、各クラスの保護者代表や第三者委員、本社運営職員、園長、主任で構成する運営委員会で説明し、了承を得ています。運営委員会です承された案件は、保護者会で保護者に説明し、意見交換しています。改善した変更例では、運動会の開催時期を6月に、場所を近くの公立ホールに変更したことがあります。運動会の従来の開催時期は10月で場所は小学校でしたが、この時期は借り入れ申し込みが特に多く抽選のため、確保が不確かで場所も遠いこと、兄弟姉妹と重なる日が多いことなどの理由をていねいに説明しました。運動会や夏祭り、発表会など園の大きな行事には、担当職員のもと、全職員が役割分担して、園全体で取り組んでいます。

職員には、職務の経験年数や能力、習熟度に応じて5段階の等級区分があります。この等級ごとの成長支援シートを用いて、各自年度初めに目標を設定し、人材育成と達成度評価により昇級や昇格をみざす制度があります。現在、2名の副主任がスーパーバイズのできる主任クラスをみざし、キャリアアップの研修を受講中です。主任は個々の職員の勤務状況を把握し、職員の希望も入れて、常勤や非常勤、経験年数などバランスのとれた組み合わせのシフト表を作成しています。主任は担当クラスを持たず、各クラスを回り、職員の保育の様子などを観察し、必要な場合は援助や指導をしています。また、体調がすぐれない様子の職員には声をかけ、具合を聞き、園長に報告して必要な対応をとっています。

評価分類VI-3 効率的な運営



園長は本社の園長会や戸塚区園長会、横浜市私立園長会、戸塚区子ども家庭支援課、横浜市子ども青少年局などから、法制度の新設や改定、待機児童の動向、地域の保育園の新設動向など、園の運営に影響のある情報を収集して分析しています。保育所保育指針の改定や小規模を含めた新設園の動向、キャリアアップ制度による処遇改善など重要な情報は、職員会議などで説明し、話し合い、重点課題として対応しています。保育所保育指針の改定では研修で学び、職員会議や園内研修で理解を深めました。キャリアアップ制度も同様です。今年は特に国内に大水害が多く発生し、園も重要改善課題として対策を協議して、初めて園全体で水害対策訓練を行いました。

園の将来を見据え、「保育の質の向上」「安全な施設環境の確保」「地域支援」の3つを柱とした、2018年度から3年間の中長期計画を1年ごとに作成しています。また、この中長期計画を踏まえて今年度の事業計画を策定しています。園は開園後3年目に入り、次代の園の運営に備え、今年度より横浜市地域子育て支援事業を開始しました。園は戸塚駅から徒歩1分のJR系列会社のビルにあり、夏祭りや節分などで駅の協力を得ています。こうした園の強みを、今後も保育に生かしていく予定です。成長支援制度に基づいた成長支援シートや、本社の研修体系の活用により、次代の園運営を担う後継者の育成に努めています。運営に関して、園長も外部研修などで専門家から学び、本社が委託している公認会計士や社会保険労務士から、本社経由で指導や助言を受けています。

利用者本人調査

結果の特徴

調査方法

第1日目、第2日目の午前遊び、昼食、午睡の状況などを中心に、観察調査を実施しました。また、幼児とは会話の中で 適宜聞き取り調査を実施しました。

【0歳児】

0歳児の部屋では、子どもたちが保育士のそばで思い思いの遊びを楽しんでいます。部屋に入ると、子どもたちは笑顔でこちらを見えています。クリスマスツリーの幹の部分に子どもの写真が貼られたものが、天井からつり下げられたり、指先で引っ張ったりめくったりする手作りのおもちゃや、音の鳴るおもちゃなど感覚を育てるものを用意され、子どもたちが遊びながら笑い声をあげている場面が見られました。「〇〇ちゃん、かわいいね」「楽しいね」保育士は子どもたちに優しく声をかけています。食事のときにはそれぞれの椅子に座って食事をします。「あら、そっちのほうが好きなのね、こっちのお野菜も食べてみようか」「手を拭こうね」子どもが楽しんで食事ができるように、子どものペースに合わせて声をかけていました。食事が終わると、保育士の膝に抱かれて本を見たり着換えさせてもらったりしています。おむつを取り替えるときには「気持ちいいね」「きれいになった、すっきり」と声かけをして、子どもを抱きしめるなどスキンシップをしていました。訪問時は1歳児と一緒に午睡をしていました。午睡前には自分の好きな絵本を読んだり、1歳児のまねをしておままごとセットのお玉で食べるしぐさをするなど、のびのびと笑顔で遊ぶ子どもたちの姿が見られました。子どもたちが横になると、保育士は子どもたちの背中をやさしくトントンしたりなでたりして、子どもが安心して休めるようにしています。

【1歳児】

1歳児の部屋には木のキッチンセットが置かれ、床に道路や風景が描かれたマットが敷かれ、子どもたちがブロックを車に見立て「ブブー」と遊んでいました。活動の区切りには数名ずつトイレに行きます。トイレが終わった子どもは自分でズボンをはきます。一生懸命自分で足を入れて頑張っている子どもに保育士は「すごいね、自分ではけるかな」と励ましたり、少しズボン上げるのを手伝ったりしています。食事のときは、子どもは自分の好きな所に座っています。今日の食事はハンバーグです。「ハンバーグ食べようか」保育士が声をかけると、子どもたちはとても上手に食具を使っています。「おいしいね、モグモグ」一緒に食べながら声をかけています。ご飯を食べ終わった子どもに保育士が「すごい、上手に食べられたね、ピッカピカ」と笑顔でほめていました。落としたものには「これは食べないのよ」と様子を見て援助しています。無理に食事を進めている様子はなく、子どもたちのペースで気持ちよく食べられるように声をかけ、子どももニコッと笑って食事をしています。食事が終わり、着替えをすると午睡の時間になりました。眠くなって少しぐずりだす子どもには、抱っこをしたり声をかけたりしています。少ししてから様子を見に行くと、保育士に背中をトントンしてもらいながら落ち着いて眠っていました。保育士は子どもの言葉を肯定的に受け止め、否定的な言葉を使わずに子どもと接していました。

【2歳児】

玄関で靴下や靴を自分で履くなど身支度を終えた2歳児は、隣の子どもと手をつなぎ「出発進行！」と元気に散歩に出かけました。線路横の歩道橋の階段では、一列になって手すりにつかまりながら一段一段上ります。「あ、電車だ」「あれ東海道線！」などと電車を見ながら楽しそうです。歩道橋の階段途中で2羽の鳩を見つけると「ハトさんだ」「ハトさんも階段の練習してるね」と子どもたちは笑顔に。訪問日はとても寒い日で、週末を親子で過ごした後の月曜日でもあり、目的地へ向かう途中、「お母さんに会いたくなっちゃった」とぐずりだす子どもや、歩みを止めてしまう子どもが何人かいて、保育士は子どもたちの様子を見ながら目的地を近場の公園に変更しました。ビニールひもを編んだシッポを保育士がつけてシッポ取り遊びが始まりました。「がんばるぞ！よーいどん！」子どもたちが歓声をあげて保育士を追いかけ、次は数人の子どもたちがしっぽをつけて走って逃げます。シッポをとった子どもは「とった！」とピョンピョン跳んで笑います。転んで泣き出す子どもがいると保育士が駆け寄り優しく声をかけています。次は電車ごっこです。赤と青の電車がプリントされた2つの小さなビニールシートの輪に、子どもたちが入って「しゅっしゅっぽっぽっ！」、4人も乗れば超満員、転ばないようにみんなで協力して進みます。電車ごっこは大人気で、青い電車と赤い電車が並んで走るときには互いに「ヤッホー！」と笑顔で楽しそうに手を振り合っていました。

【3歳児】

保育室では保育士が一人一人名前を呼んでクリスマスプレゼントを渡していました。「おうちに帰ったら開けていいんだって」「楽しみ！」と、みんな嬉しそうに受け取って自分のカバンにしまっているなか、一人だけふくれっ面でプレゼントを受け取らない子どもがいました。横にいた保育士が「前の活動で思った通りにいかなかったようなんです」と、理由をそっと教えてくれました。プレゼントをなんとか渡そうと保育士が根気よく声かけを試みますが、その子どもは頑なに受け取りません。保育士は無理強いせず、「お話始まるよ」と読み聞かせを始めます。保育士が手に絵本を持って読み聞かせを始めようとする、プレゼントを受け取っていない子どもは「読んじゃだめ」と言い、ほかの子どもたちは「読んで！」と言いました。ついにその子どもはプレゼントを受け取り、カバンにしまってきて着席しました。保育士がサンタクロースの絵が描かれた絵本を「クリスマスの夜は静かにね」と読み始めると、子どもたちはみんな興味津々で真剣に耳を傾けていました。食事の時間、ご飯が運ばれてくると子どもたちから「やった！カレーだカレーだ！」と喜ぶ声があちこちからあがり、みんな笑顔です。名前を呼ばれた子どもから、自分の分をお盆にのせて席まで運びます。食事中に「生活発表会では、おすし屋さんの劇をやったんだよ」「えびといかとまぐろと卵と穴子が出てくるの」「ドキドキしたよ」などと楽しそうに話してくれました。

【4歳児】

赤い折り紙でサンタクロースを折っています。もうほとんど完成です。「だんだんサンタさんみたいになってきた」「サンタさんは空を飛んでくるんだ」とできあがったサンタクロースを空中で振り回す子どももいます。「先生これでもいい？」「下に出ているのを後ろに折って、そう、できた」保育士が教えています。「最後は大切な目を入れます」黒の色鉛筆が配られました。大きかったり、小さかったり、帽子と赤い服の間に顔を描いています。「ほら、できた」「あ、いいね」と保育士が返します。「残った白い紙は何に使うの？」子どもが聞くと、「サンタさんのプレゼントを入れる袋だよ」「紙のはじを少しずらして三角のように折ってください」「そう、次に横の角を真ん中に持ってきて」保育士が説明し、何回か続くと、「難しいな、先生これでいいですか」「そう、これでできあがり。テープでサンタさんに付けてください」「貼ったよ、できた、できた」やっとなできあがったサンタクロースの折り紙を、みんなで見せ合い、満足そうでした。「サンタさんにおひげを描いた子もいるね、いいね」保育士は子どもの作品に名前を書きながら話していました。

食事が始まっていました。献立はポークカレーに切り干し大根サラダ、キャベツのスープ、デザートはオレンジです。「カレーライス大好き」「ハヤシライスが辛なくていい」「オムライスが好き」「映画見て来たよ」「何見たの」「お代わりしよう」、いろいろな話をしながら、子どもたちは食事を楽しんでいました。

【5歳児】

歌声が廊下にもれて来ています。部屋に入ると、保育士のピアノに合わせて元気な声で「ジングルベル」を歌っていました。歌はすぐに終わり、絵画の時間です。二つのテーブルに分かれ、今日の当番の子どもから、各自に画用紙とクレヨンが配られました。「この間のお楽しみ会の絵を描いてみましょう」と保育士が言いました。真っ先に一人の子どもが画用紙を縦にして真ん中あたりに緑で太い点線をいく本か描きました。ほかの子どもたちも何を描くのか、手を止めて見えています。その子どもは画用紙を横にして黒で二本ずつ足を描きました。子どもたちはその子どもが何を描こうとしているのか理解して、似たようにクレヨンを使い始めました。さっきの子どもは緑の線の上にいろいろな楽器を手にした子どもを描き出しました。ほかの子どもも同じ動きをしています。保育士が「みんな楽器なの。まねなくていいんだよ。好きなように描いてごらん」「楽器だと簡単だもん」子どもの一人が言いました。画面の右端に太く青い棒状のものを描き加えました。幕のようです。いろいろな楽器を使っている子どもたちができてきました。「お客さん描いてもいいんでしょ？」「いいよ」と保育士。下の方に横線を引き、客を描き出す子どももいます。絵は完成すると廊下に掲示するそうです。

16時30分過ぎ、4歳児の部屋で4、5歳児が自由遊びです。5歳児はオセロゲームや、保育士とはさみ将棋、ずらりと積み木を並べてドミノ倒しなど、好きな遊びを楽しんでいました。

利用者家族アンケート

結果の特徴

(実施期間：平成 30年 10月 1日 ~ 平成 30年 10月 15日)

送付方法・・・園を通して保護者へ配付

回収方法・・・評価機関宛に保護者より直接郵送

送付対象世帯数： 43 回収数： 31 回収率： 72.1%

保育園に対する総合的な感想は、「満足」が24人(77.4%)、「どちらかといえば満足」が5人(16.1%)で合計29人(93.5%)でした。

自由意見には、「子どもたちへの先生方の優しいまなざしがいつも心の支えになっています。安心していられます」「異年齢交流がよく行われているところが良い。先生方が他のクラスの子どものこともよく理解しており、情報が共有されていて安心」「先生方が保護者の立場になって考えてくれている。こんなに親切丁寧な保育園があるのかと驚いています。本当に満足しています」「建物も新しく清潔感があります」など園への信頼と感謝を寄せる声が多く見られました。

項目別に見ますと、とても満足度が高い項目として「問5② お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては」「問4遊び① クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)」「問4生活④ 昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては」「問5③ 外部からの不審者侵入を防ぐ対策については」「問5① 施設設備については」で100.0%の保護者が「満足」または「どちらかといえば満足」と回答しています。

結果の詳細

■園の基本理念や基本方針について

園の保育目標・保育方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	9.7%	80.6%	9.7%	0.0%	0.0%	0.0%

問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

付問1

保育目標や保育方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	60.7%	39.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

■施設のサービス内容について

問2 入園する時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
①見学の受け入れについては	58.1%	9.7%	3.2%	0.0%	29.0%	0.0%
	その他： 「新規のためしなかった」というコメントがありました。					
②入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	58.1%	32.3%	9.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他：					
③園の目標や方針についての説明には	64.5%	32.3%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他：					
④入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応については	61.3%	35.5%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他：					
⑤保育園での1日の過ごし方についての説明には	58.1%	38.7%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他：					
⑥費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかを含めて)	64.5%	29.0%	3.2%	3.2%	0.0%	0.0%
	その他：					

問3 保育や行事の年間計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
①年間の保育や行事についての説明には	67.7%	22.6%	6.5%	3.2%	0.0%	0.0%
	その他:					
②年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	54.8%	32.3%	6.5%	6.5%	0.0%	0.0%
	その他:					

問4 日常の保育内容について

遊びについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
①クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	64.5%	35.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
②子どもが戸外遊びを十分しているかについては	32.3%	45.2%	16.1%	6.5%	0.0%	0.0%
	その他:					
③園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	67.7%	29.0%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
④自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	35.5%	45.2%	12.9%	3.2%	3.2%	0.0%
	その他: 「もっと区や地元の方々などとの交流ができるようなかわり方はないか」というコメントがありました。					
⑤遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	51.6%	38.7%	9.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
⑥遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	48.4%	41.9%	6.5%	3.2%	0.0%	0.0%
	その他:					

生活について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
①給食の献立内容については	74.2%	19.4%	6.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
②お子さんが給食を楽しんでいるかについては	61.3%	35.5%	0.0%	3.2%	0.0%	0.0%
	その他:					
③基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	71.0%	25.8%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
④昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	64.5%	35.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
⑤おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	64.5%	22.6%	6.5%	0.0%	6.5%	0.0%
	その他: 「おむつはずしをしていない」というコメントがありました。					
⑥お子さんの体調への気配りについては	54.8%	38.7%	3.2%	3.2%	0.0%	0.0%
	その他:					
⑦保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	61.3%	29.0%	9.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					

問5 園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
①施設設備については	61.3%	38.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
②お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	67.7%	32.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
③外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	64.5%	35.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
④感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	71.0%	25.8%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
①保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	51.6%	45.2%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
②園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	71.0%	25.8%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
③園の行事の開催日や時間帯への配慮については	61.3%	25.8%	6.5%	6.5%	0.0%	0.0%
	その他:					
④送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	45.2%	51.6%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
⑤お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	58.1%	35.5%	6.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
⑥保護者からの相談事への対応には	58.1%	32.3%	9.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
⑦開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	54.8%	29.0%	6.5%	6.5%	3.2%	0.0%
	その他: 「その他」の理由コメントはありませんでした。					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
①あなたのお子さんが大切にされているかについては	71.0%	25.8%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
②あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	77.4%	16.1%	3.2%	3.2%	0.0%	0.0%
	その他:					
③アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	64.5%	25.8%	3.2%	0.0%	6.5%	0.0%
	その他: 「対象外」というコメントがありました。					
④話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	67.7%	29.0%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
⑤意見や要望への対応については	54.8%	32.3%	12.9%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					

問8 園の総合的評価

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	77.4%	16.1%	6.5%	0.0%	0.0%

事業者からの意見

この度、開園以来初の第三者評価を受審いたしました。

お忙しい中アンケートにご協力をいただきました保護者の皆さま、2日に渡る訪問と細やかなフィードバックをしていただいた株式会社学研データサービスの皆さまに、この場をお借りしてお礼申し上げます。

園内研修や個々の自己評価での振り返りや、法令に則った保育内容を満たしていたものの、今回「期待水準」に於ける評価を行うことで、園の新たな課題や目標がより明確になりました。日々の工夫や問題解決の過程を文章化したり、意見交換をすることで、職員がまた一つ成長したことはとても嬉しく感じています。今回の経験を糧に、今後もさらに子ども達の心に寄り添った保育を続けていきたいと考えております。

これからも、子ども達にとっての“第2のおうち”として保護者の皆さまや地域の方々とともに、一歩ずつ歩んでいきたいと思っております。ありがとうございました。